

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4572000521
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里
事業所名	グループホーム こすもす
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字椎木4007-2 (電話)0983-32-4197
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1-101
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(19年 6月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月23日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木城クリニック 高城歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景に囲まれた、静かで落ち着いたある恵まれた環境にホームは立地している。「利用者の安心と安全・地域福祉への貢献」を理念に地域の中で安心して暮らしてつづけることが出来るよう、利用者の立場に立った暖かい心のこもったサービスが実践されている。元気で明るい職員に支えられ、利用者は食事の準備を職員と一緒にしたり、後片付けを手伝ったりして生き生きと個性豊かに生活している。年齢のわりに全員が元気で表情が明るい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえて、改善計画を作成し具体的な改善に取り組んで欲しい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者、管理者を中心に職員会議等で意見を出し合い、全員が参加して作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月~3か月に1回開催し、ホームの活動内容、利用者の状態等を報告し、行事計画等について活発な意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には常に問いかけ、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。又、運営推進会議に家族代表が出席し家族の意見等を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや文化祭等には参加しているが、地域の一員として自治会に加入したり、ホーム便りを発行し広報活動に取り組む等、さらに地域との交流が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の安心と安全・地域福祉への貢献」を理念に地域の中でその人らしく安心して暮らし続けることが出来るよう、全員でサービス向上に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者をはじめ全員が出席して毎月開催される職員会議で、理念を掘り下げ全員で話し合い理解を深めている。又、ミーティングや朝夕の申し送りの際にも確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや福祉スポーツ大会、文化祭等の行事には参加しているが、地域に対する啓発・広報の取り組みが行われていない。	○	地域の一員として、自治会に加入し地域との交流を深めたり、ホーム便りを発行し広報に力を入れる等地元との関わりをさらに深めてほしい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者、管理者を中心に全員で取り組み、サービス向上に取り組んでいる。外部評価の結果は職員会議で全員に報告している。	○	外部評価の結果を踏まえて改善計画を作成し、具体的な改善に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月～3か月に1回開催し、ホームの活動内容、利用者の状態等を報告し、行事計画について話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が役場の担当窓口に定期的に出向き、ホームの実情や情報を報告し、担当者からは適切な指導をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝え、又、金銭管理については金銭出納簿を明示し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に常に問いかけ、意見や苦情等を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職者が少なく、馴染みの職員が継続的に暖かく支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修については、年間の研修計画や段階に応じて育成するための研修が充分ではない。	○	職員が立場や経験、習熟度に応じて段階的に力をつけていける研修計画を立て支援してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西都、児湯地区で同業者と勉強会や情報交換会を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族から事業所を見学してもらったり、職員が直接面談する等、安心してサービスを受ける事ができるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が安心して地域の中で暮らし続けることができるよう、共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から利用者にかかわる情報を多く収集し、日々の行動や表情から暮らし方の意向、希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い、意見を充分聴き、職員全員でアイデアを出しあい、意見交換をして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが実施されていない。	○	新たな要望や変化が見られない場合でも、月1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向を確認し、見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定は受けていないが、通院や早期退院の支援は柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としており、気軽に相談や往診も出来る体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書は作成されていないが、本人や家族と方針について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、誘導の声かけや言葉使いには細心の配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し、希望にそって柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をし、好みや希望を出来るだけとりいれ、同じ食卓を囲んで同じ食事を一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にその日の健康状態を確認し、希望に合わせて週3回入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみや掃除、食事の手伝い、後片付け、庭の草取り等毎日張り合いや喜びのある生活が出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に出かけたり、買物や外食等できるだけ外出が出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。地域の人々の支援を得るまでにはなっていない。	○	災害が発生した場合、職員だけの誘導では限界があり、日ごろより、地域住民や警察署、消防署との連携を図っておくことが重要であり、そのための協力体制の構築を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や栄養摂取量、水分量を把握しており、バランスの良い献立となっている。		栄養バランスに配慮した献立となっているが、定期的に管理栄養士による専門的なアドバイスを受けてほしい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、家庭的でゆったりと居心地良く過ごせるよう工夫がされている。畳敷きの室では寝転んだりしてくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出の写真や使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、居心地良く安心して暮らせるよう工夫がされている。		